

はくがんさん



今年は采海が小学入学、
大洋は二年生、おばあさ
んは95歳になります。

第72号 平成22年正月
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行
TEL 0558 (83) 0320

寿量の祈り

私たちは天の三光（太陽、月、星）、地の恵みや、穀物や野菜、魚肉などの「おかげ」で生きています。

また社会で働く人々や、ご先祖さまの「おかげ」により、毎日の生活ができ、今の私があり家族があります。

*

新年にあたり、天の三光、大地の恵み、社会で働く人々、ご先祖さま、そして皆さまに「ありがとうございます」と感謝し、新年の

ご挨拶を申し上げます。

*

今、社会全体に重苦しい雰囲気があるのは何なのでしようか。

混迷したら原初に戻る、私たちは何の為に生きているのか、何処へ向かって歩みを進めているのかと。その方向を考えようとせず、また覚悟してない。自分ではしっかり歩んでいるつもりでも、さ迷ってしまっているのではないでしようか。その結果どうしても目先の利益追求となり、疲れ果て、自分を責めたり、家族や他人を責めたりしてしまう様になります。

*

どうにもならない事はあつて当たり前、「自分だけが何でこんなに」と嘆いて帰る終電車、涙ですする屋台のラーメン。そんな時でも、遅くまで働く運転手さん、屋台のおじさん「ありがとう」、お金を払っているとはいえ「おかげさま」には違いないのです。

そんな様々な「おかげさま」を素直に感じ取り、「ありがとうございます」と声に出して感謝すれば、自然と「おかげさま」、「ありがとう」の人生となり、自分の歩みが見えてくるのだと思います。

オリンピック直前、あるコーチが選手に指示したことは、今までお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えてきなさいということでした。そして大活躍したのです。

澄んだ目で自分や周りを見つめ、「おかげさ

ま」を感じ取れるようになっていきましょう。

寿量の祈り、寿量の会

それには祈りが必要です、自分を創るトレニングといつてもいいでしよう。

その祈り・トレニングを「寿量の祈り」と名づけたと思います。法華経寿量品に基づく寿量とは、多くの量の「おかげさま」を寿（ことほぐ、感謝するということ）です。

この趣旨に賛同する方々で「寿量の会」を作り、毎日の生活の中で、柔軟な自分、澄んだ自分づくりをしていきたいと思ひます。

寿量の杜、寿量の塔

寿量の祈りは、毎日の生活の中で行います。折々に大自然の清浄な杜で祈ることが必要となります。祈りの核となる魂は杜に棲み、魂は杜で浄化され蘇るからです。

この杜を第二墓地の一番奥まった場所を中心に作り、「寿量の杜」と名付けます。会員が増えるに従い、美しい杜づくりを境内周辺から伊豆市全域に広げていきたいという夢を持っていきます。昨年の秋、護持会役員さんで雑木を整備してもらい、杜づくりが始まりました。

祈りのシンボル「寿量の塔」は、大地にどっしり構え天空に向かいます。「寿量の塔」の中に新しい永代供養塔を含めて、祈りの場としていきたいと思ひています。

本年も宜しくお願い申し上げます。合掌

謹賀新年



法住寺護持会

〔総代、護持会長〕 山下 一

〔総代、副会長〕 伊東 修

〔総代〕 佐藤雄一

〔世話人〕 山下要、飯田忠、飯田安久、

室野則義、小塚昭男、森野博

小塚順一、杉山勲、山田隆二

中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕 小塚正司

〔顧問〕 小塚勝

〔世話人〕 伊東繁春、井本正雄、山下要、

井本まつ、伊東はつ江、三田五月、

山下しづか、伊東すゑ子、伊東ちゑ子、

三田幸子、山崎まち、伊東通子、

鈴木紀一、滑川正勝、滑川美奈江、

森野一夫、山下清、林秀、小塚孝夫、

小塚貞夫、小塚康清、山本宏衛、

山下千代子、小塚愛子、土屋賢吾、

佐藤雄一、佐藤秀夫、杉山しまゑ、

山本義富

伊豆連合大題目講

〔理事〕 山下要

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

昨年一年間、いろいろな方にお話を伺ってきました。

「今の自分は、とつても幸せ」という方も多く、また「今よりも幸せになりたい」という方もありました。そんな中で「物事がうまくいかなくて困るだよ」という人の話を聞きますと、どうも「悪いのは、周り」であり、「運」であると聞こえてきます。そうでしょうか。

*

一方「何か、うまくいっていないだよね」という人は、なかなか良い結果を出せなかったり、病気になるたりしているのですが、そのことを「格段の不幸」とか、「不運」だとか、思っていない様です。それどころか、そのことを糧として生きている様にさえ見えます。

「これは一体、どういうこと？」。

「努力しても、なかなか良い結果を出せない」とか、「病気になるたりする」ことは、誰にでも起こりうることで、でも、いざその時に、マインスマ面ばかりに囚われて、「自分は不幸だ」、「周りが悪いんだ」と、愚痴ばかり言っていたら、実は自分の足元にあるかもしれない小さな「幸せの種」に気付くこともないでしょう。そのことが、また次の不幸を招いている様な気もします。

*

寒い中、じっと春を待つ境内の石楠花、大きな蕾です。



私の良く知っている方で、「事業に失敗して苦しくてたまらない時」も、「事業が波に乗って万々歳の時」も、感謝を忘れないで手を合わせている方がいます。その方が不思議な位、次の幸せの種を見つけていることができます。感謝の気持ちを持ち続けることが次の幸せを招くのでしょうか。

苦しい時も、嬉しい時も、お題目！心を落着かせ自分を見つめてみましょう。そして自分の周りの方々の幸せも祈る一年でありたいと思います。

厄払い開運星まつり

一月三十一日(日)午後時

節分、立春は旧暦の年の始め、また春の始め、今年も『星まつり』があります。

人にはそれぞれ星宿、自分の星を持っている、運氣となって表れます。そこで自分の星



をお祭りし、清浄にして仏さま、諸天善神のご加護を頂き、悪い運氣を払い幸運をご祈願いたします。

『善星皆来 悪星退散』皆さまの星が良く輝きますよう、厄払い、交通安全、家内安全、身体健全、商売繁盛等のご利益が頂けますよう、ご祈祷、ご祈願しましょう。

昨年のご祈願された方は、お札をお持ちください。お焚き上げ致します。詳しくは別紙をご覧ください、お申し込み下さい。

伊豆法難七五〇年、万灯行列

日蓮大聖人が伊東川奈に流された「伊豆法難」から、今年七五〇年となります。

そこで日蓮宗や東部宗務所では、いろいろな慶讃行事を予定しています。まず五月十二日は宗門報恩法要。その前夜は万灯行列、伊東駅前より本山佛現寺まで市中を練り歩く予

定です。

当山の白龍会にも依頼がきましたので、小塚順一会長さんを中心に準備してもらっています。宜しくお願い致します。

日蓮聖人の時代は、天災、飢饉など頻繁に起こり世は乱れていました。大聖人は、その原因を探求し、人々が安心して暮せる世の中にする為に、法華経を中心にした国づくり(立正安国論)を鎌倉幕府に奏進しました。

これが原因で伊東に流されたのです。約二年間、伊東に在りましたが、この地で「四恩鈔」という大切な御遺文をお書きになりました。大自然・国、社会の人々、父母・ご先祖さま、仏さまの御恩を大切にし感謝するようご教示されたのです。

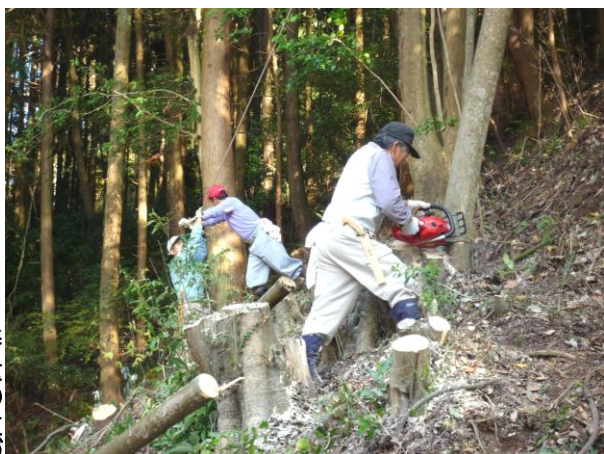
蓮華の会、十二日講と

お経と和讃を初歩から学ぼうと始まった「蓮華の会」は、その目的を遂げましたので、今年の正月から十二日講(毎月十二日午後二時)と一緒に活動することになりました。まだ参加されていない方は、この機会と一緒に信行活動してまいりましょう。

トピックス

「寿量の杜」の山

十一月下旬、護持会役員さん総出で、「寿量の杜」の山林整備を行ってくださいました。大木が何本もあったので、寿量の塔(永代供



寿量の杜の山

枝葉も沢山でした

養塔) 建立の前に行いました。

大木はワイヤーで絡めクローラーで引つ張るといふ作業でしたが、山仕事をよく知っている役員さんがいて大助かり。その後の片付けも大変な仕事でしたが、気持ちの良い作業が出来ました。

この後は、もみじ等を植樹し、周辺を美しい杜に整備していく予定です。

境内整備作業

年末の境内整備作業は元村③のご奉仕で、本堂西側の雑木伐採を行ってもらいました。防風を考えながら、将来大木になって困る木を整備、本堂の景観が良くなりました。何時も、ありがとうございます。お詣りの時には、本堂西側のさっぱりした景観をご覧下さい。尚、今年の整備作業の予定は次の通りです。

春三月 元村① 夏七月 西
秋九月 清水① 冬十二月 元村②



洋明さんのおはなし

御志納金「十一月」

十万円 元村 伊東 徹殿 尊父十三回忌砌

新年明けましておめでとうございます。本年も妻・子供共々宜しくお願い致します。

* さて皆さんにとって昨年はどんな年でしたか。嬉しいこと、悲しいこと、いろいろあったことと思います。中には「何もなかった」という方もいらっしゃるかもしれません。でも、「何もない」といえる日々を過ごせるのは、仏さま、諸天善神に守られているからだと思えます。

皆さんは、本堂や仏壇の前で手を合わせる時、まず何を心に思いますか。お願い事、いろいろな報告、いろいろあると思います。私は最初に感謝(報恩感謝)の気持ちを持つて手を合わせます。「今こうしていられるのは仏さま、諸天善神、日蓮聖人、ご先祖様のお蔭です。ありがとうございます。」と。そしてご先祖さまへのご回向、お願い事、様々な報告をさせて頂きます。まずは感謝の気持ちが大切です。

* 昨年はこのことの大切さを実感することがたくさんありました。多く方のご祈祷、ご祈願をさせて頂きましたが、ただお願いするのではなく、まず仏さまを信じる気持ち、感謝の気持ちを持つことから始める、真の信心の力強さを実感したのです。

困った時の神頼みもあるでしょうが、そんな時でも、ご縁があつて仏さまを頼り、仏さまが自分を呼んでくださっていると感謝する

ことが大事なのです。

願掛け中は、一生懸命手を合わせることをしても、いざ願いが叶ったらそれで終わりではありません。せつかくの仏さまとご縁を大切にしなければなりません。また結果が自分の思う様にいかなくても、仏さまが自分を成長させる為に与えてくださった必要な経験として受け止め感謝をする。苦しいときや辛いときも仏さまを信じ、支えられていると感じる気持ちが大切です。

* 日蓮聖人は御遺文の中で「人の心かたければ 神の護り必ずつよしと候へ」とご教示下さっています。信じる心がかたく、感謝の気持ちを忘れなければ、諸天があなたを守護する力はとても強いということです。

しかし、明日から信心と感謝の気持ちをつよく持ちなさいといつても、直ぐに人は変わるものではありません。エゴが出ることも多く、なかなか思う様にならないものです。欲もあり、奇麗ごとばかりではありません。私自身も、もつと罪障消滅をしななければと反省の日々です。

そこで今年の私のテーマは、「当たり前のことへの感謝」です。身の回りの小さなこと、当たり前と思ってしまうことに、まずは感謝をしていきたいと思えます。そして皆さんと共にお題目をお唱えし、もつともつと信心を深めていきたいものです。